

歴代優秀賞受賞者からの寄稿

佐伯 静琉さん（受賞当時小学1年生）からの寄稿

平成25年度 多摩市教育委員会教育長賞受賞 「みぢかなこうえんのはなのいろ」

僕は小学1年生の時に「みぢかなこうえんのはなのいろ」で多摩市教育委員会教育長賞を受賞しました。当時は色々な驚きや発見がありました。花の咲いている環境は公園によって違いがあり、花が少ない公園や、逆に色々な花が咲いている公園があって驚きました。

僕は当時、一番多い花の色をピンクと予想しましたが、予想とは異なり白の花が多いことに驚きました。このようなことは実際に見てみないと分からないことでした。僕は、この作品を通して実際に見て調査することの大切さを学びました。

4年生になった今年は、自由研究の実験で、1年生の時の経験を生かして実際にできるだけ詳しく見て正確に結果を記録することができました。

僕は将来科学者になりたいと思っています。今まで学んできたことを大切にして、これからも観察や実験をして新しい発見をしたいと思っています。

大日向 恵惟さん（受賞当時小学3年生）・大日向 知彦さん（受賞当時小学5年生）からの寄稿

平成27年度 多摩市教育委員会教育長賞受賞 「安全を守る信号マップ」

恵惟さん

身のまわりの環境地図作品展の募集の紙を学校からもらったとき、僕は参加賞が何か気になって、その年初めて作品を応募して参加賞をもらいました。賞を取った人の作品を見たとき、僕ももっと良い作品を作りたいと思いました。

そんなときに、多摩市で事故がありました。安全を守る信号機は、大切なので信号機について調べようと思いました。交通量の多い信号機がある理由や、交差点によって信号の長さがちがうことなど調べたり、警察に聞いたりしました。信号の長さ・渋滞によって警察がコントロールをしていることが分かりました。

信号機を変えるには、取りつけに時間がかかり、交通規制が必要になるため、総合的に判断して重大な所から直していることが分かりました。将来は、すべてLEDに変えることを目指して進んでいることがわかりました。

大変だったのは、信号の時間を計ったり、多摩市内を歩き回ったりしたことでした。難しかったのは、地図にどう表せば良いのか迷いました。だから、賞が取れたときは、とてもうれしかったです。疑問に思ったことを聞いたり、調べたりしている内に理由があることが分かって楽しいと思いました。

知彦さん

最初は母にすすめられて環境地図を作りました。何回か応募をしたけれど毎年参加賞でした。ある年、受賞作品を見たとき、僕も賞が欲しいと思いました。しかし、そのためにはどうすれば良いのか、何についてやれば良いのか、いろいろ考えました。

そんなとき弟が声をかけてくれて、いつも利用している信号が電球式からLED式に変わったのを思い出して、どこがLED式なのか調べようと思いました。でも実際に信号を調べるのは、たくさん場所に行かなければならなくて、大変でした。分かったことを紙に書こうと思ったとき、何をどう伝えるのか整理ができず難しかったです。賞がとれたときは、達成感でいっぱいでした。

僕は書くことの難しさや、何をやるかの発想について、気にとめておいたり、物の見方について考えたりするようになった気がします。